



千葉 東さん(83)
昌子さん(75)
迫町・立戸
1963(昭和38)年10月入籍

あめ餅が結んだ、甘い縁

★二人のなれ初めは
【東】仲人さんに紹介されてお見合いしたね。
【昌子】若かったし、まだ結婚は乗り気じゃなかったのに、親が気に入って「婿にほしい、ほしい」って。
★お互いの第一印象は
【東】おさげ髪だったが、幼く見えだね。
【昌子】お見合いで「お客さんに餅持ってけ」って言われて運んで行ったら、つまかけして、お婿さんの股に餅をひっくり返してしまつて(笑)。印象どころじゃなかったよ。
【東】覚えてつてば。あめ餅だったな(笑)。
★お互いの性格は
【昌子】几帳面。仕事は細やかで田畑はきれいにしてるね。
【東】踊りっこ踊って、周りを明るくしてくれるな。
★夫婦円満のコツは
【東】けんかしながらも、一緒に出掛けることがな。耳が聞こえづらくなつたけど、会話は大切だね。
【昌子】仕事で家を空けるごどを理解してくれて、「気付けて行って来いよ」とか声を掛けてくれるのがうれしいね。
★これからしたいことは
【二人】畑したり、愛犬連れでドライブしたりしながら、一緒に時間を重ねていきたいね。

One's Home

ふるさとへの思い

Monthly Hot Communication

「故郷は人生の宝」

懐かしいふるさとを出て早くも半世紀が過ぎ、「少年老い易く学成り難し」の心境です。生まれ故郷の石森新町は忘れられない心のふるさとです。思い出はたくさんありますが、子どもの頃、仲間と一緒に遊んだ事が思い出されません。パッタぶず、せと玉、夏川での水浴び、秋には石森の互市のにぎやかな事、お神楽、学校行事ではたぎ取りをした事、冬には池や小川での下駄スケート、そり滑りや雪合戦など貴重な体験をしました。また、小学校に入学した1947(昭和22)年、ものすごい台風がきて北上川の堤防が決壊。自宅が床上浸水になり小学校裏の高台に避難したことも鮮明に覚えています。

蓬田 收さん(80)

東京中田会副会長
中田町(新町)出身



数々の思い出の中でも、真冬の夏川での珍事が一番忘れられません。友達3人でスケート遊びをしていたときの事です。川の真ん中に開いていた穴を飛び越えようとして川に落ち、氷の下に潜り込んでしまいました。なんとか頭で氷を割り、岸にたどり着くことができました。時代とともに遊びも変化し、昔は今ではできない遊びがたくさんありました。今の子どもたちに、このような遊びの話をして、昔ばなしにしか聞こえないでしょう。私は農家の次男のため家に残らず上京しましたが、石森中学校の同級会は毎年恒例になり、故郷の友達と50年ほど交流を続けています。皆も同じように故郷を大切に思っているの、長く続いているのでしよう。故郷がない東京の友達にこの事を話すと、うらやましがっています。やっぱり故郷は人生の宝です。故郷には父母あり、感謝の気持ちをお忘れな事ありません。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、1989(平成元)年から続いた東京中田会の総会も中止になり残念であります。早く収束してくれることを祈る毎日です。

おらほの道の駅

道の駅林林館「森の茶屋」



澁谷店長が「毎日でも食べたい」と話すレストランー押しメニユーは、季節限定「トマトと蒸し鶏のサラダ冷やし中華」(780円)。野菜たっぷり、リンゴ酢の酸味が絶妙な一品です。

今月は、道の駅林林館「森の茶屋」の澁谷祐介店長にお話を伺いました。
Q道の駅の特徴などを教えてください
三陸自動車道が南三陸町まで延びたことで車の流れが変わり、これまでのロードサイドの休憩所としての施設から目的地として来なくなる施設を目指して営業しています。観光目的はもちろん、日常の買い物のために遠くまで運転するのが大変という地元の声にも応え、日用品、精肉や調味料なども充実させ、地元根付いた店としても力を入れ



はっとフェスティバルでグランプリ大賞に輝いたことがあるはっと汁をベースにした「はっと定食」(680円)

節ごとにさまざまなメニューを提供しています。
Qこれから開催されるイベントなどを教えてください
秋には、きのこ祭りを検討していますので、楽しみにしていってください。
【問い合わせ】道の駅林林館「森の茶屋」
0220(45)1218



シイタケ、マイタケなどのキノコも人気の

まちの文芸 短歌

作品募集!
●9月号は俳句・川柳です。住所・氏名・電話番号を記入し、7月31日(金)まで応募してください。作品・氏名には全てふりがなを振ってください。
●応募者多数の場合選考して掲載します。

亡くなられ癒やしの会話閉ざされし
早し一年最早初盆
さまざまな木陰の庭に育みし
野草廻りて余生楽しむ
枯れたり打ち捨ておきし鉢植えの
ハイビスカスの黄花咲きいづ
葉櫻に朝日さしこみ輝きて
花におとらぬ今しあかるし
快音を鳴らし田植え機進み行く
後から早苗真つすぐ六列
菅原たゑ子 (迫)
熊谷タヘ子 (中田)
千葉 源治 (中田)
本宮やつの (中田)
石崎よしの (米山)

腰痛に姿勢を変えつつ草を引く
根は強かに我に向い来ぬ
雨を乞う畑の野菜暑さ耐え
天のお恵み今日もただ待つ
芽が出たの二葉になりて本葉まで
早く花咲き胡瓜になあれ
五十年共に歩みし夫婦道
互いに贈る「忍耐」二文字
あの夏に逝きし妹かえらぬに
あの日の花は変わらずに咲く
佐々木康子 (米山)
齋藤フキ子 (石越)
加藤 了子 (南方)
佐藤 昭子 (南方)
三上久美子 (南方)

応募総数18作品